

第 5 章	社会(地理)	名前:	日 付	No.02
	南北アメリカ			

[問題 1]

アメリカ合衆国の農業について、次の各問いに答えよ。

- (1) 広大な農場で労働者を雇い、大型機械を使い特定の作物を大量に生産する農業を何というか。
- (2) アメリカでは各地の気候や土地の様子に適した作物を地域ごとに栽培しているが、このことを何というか。漢字 4 文字で表せ。

[解答欄]

(1) 企業のな農業	(2) 適地適作
------------	----------

[解説]

[アメリカ農業の特色]	
・適地適作	気候や土壌にあった作物を作る
・企業のな農業	広い面積, 少ない人数 大型機械による大規模農業

アメリカは日本の 25 倍という広大な国土をもち、しかも国土面積の約 41%は農地である。

(日本の場合、農地は国土の約 12%にすぎない)

この広い耕地で農業を行うのは、人口のわずか 1.6%の農民であるため、農民 1 人あたりの耕地面積は 158ha と非常に大きい。(統計は 2009 年)

(統計出典)「世界国勢図会 2012/2013」P207

少ない人数で広い面積を経営するために、大型の農業機械を使う大規模な農業である。

農作物は自給用としてではなく、商品として売るために生産している。

このように、アメリカの農業は企業のな農業という特色をもっている。

また、気候や土壌にふさわしい作物を選び、同種類の作物を大量に作る適地適作が行われているために、農業の地域区分がはっきりしている。

[問題 2]

右の地図を見て、以下の各問いに答えよ。

- (1) 地図中の A～C は、それぞれある農産物の生産量が多い地域を示したものである。A～C にあてはまる農産物を下の[]から選べ。

[綿花 とうもろこし 米 小麦 だいず じゃがいも さつまいも]

- (2) 地図中の X-Y の線は何を表しているか。次のア～ウから選べ。

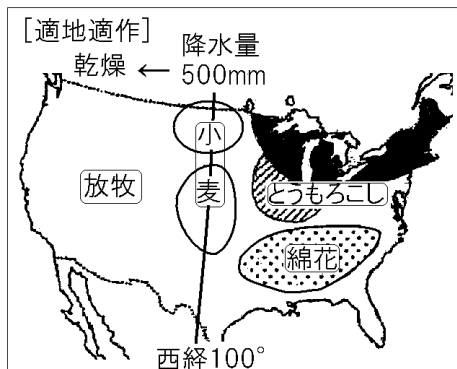
ア 年平均気温 15℃ イ 年間降水量 500mm ウ 標高 200m の等高線

- (3) (2)の線の西側と東側での農業の様子の違いを説明せよ。

[解答欄]

(1)A 小麦	B 綿花	C とうもろこし	(2) イ
(3) 西側は降水量が少ないため放牧が中心である。東側は降水量が比較的多いため、綿花やとうもろこしなどの穀物生産が行われている。			

[解説]



アメリカでは、降水量や気温などの自然条件にあった適地適作がおこなわれている。

アメリカでは西へ行くほど降水量が少なくなる。

西経 100° の線は年間降水量 500mm の線とほぼ重なる。

この線の付近にあるグレートプレーンズとプレーリーは世界的な小麦地帯になっている。

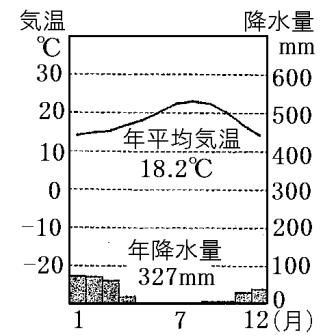
西経 100° より西の年間降水量が 500mm より少ない乾燥地帯は放牧が中心である。

西経 100° より東には、とうもろこし地帯、綿花地帯などが広がっている。

[問題 3]

右の資料はアメリカの西海岸最大の都市の雨温図である。

- (1) この雨温図が示す気候区は、ヨーロッパでは、地中海沿岸に見られる。
この気候区の名前を答えよ。
- (2) この雨温図が示すアメリカの都市を次の[]から1つ選べ。
[シカゴ ロサンゼルス ワシントン]
- (3) この雨温図が示す地域で見られる農業を次のア～ウから1つ選べ。
ア 夏の乾燥を生かした果樹栽培
イ すずしい気候を生かした酪農
ウ 雨の多い気候を生かした綿花栽培



[解答欄]

(1) 地中海性気候	(2) ロサンゼルス	(3) ア
------------	------------	-------

[解説]

問題の雨温図は、太平洋岸にあるカルフォルニア州のロサンゼルスのものである。

この付近は、夏の降水量が少ない地中海性気候(温帯)である。

夏の乾燥を生かした果樹栽培(オレンジなど)などの地中海式農業がおこなわれている。

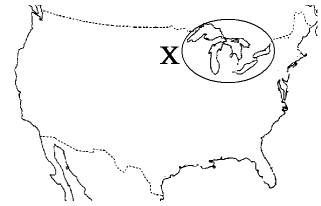


[問題 4]

次の各問いに答えよ。

- (1) 右図の X の周辺の豊富な石炭や鉄鉱石を利用して、19 世紀に鉄鋼業がさかんになった都市はどこか。下の[]から 1 つ選べ。
- (2) (1)の鉄鋼を利用して、X の周辺で 20 世紀前半から、自動車産業が発達した都市はどこか。下の[]から 1 つ選べ。

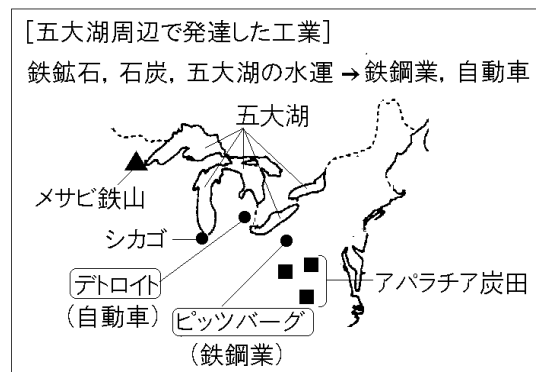
[ポストン ピッツバーグ デトロイト ニューヨーク シアトル]



[解答欄]

(1) ピッツバーグ	(2) デトロイト
------------	-----------

[解説]



アメリカで古くからある工業地域は**五大湖周辺**にある。

五大湖の南には**アパラチア炭田(石炭)**、西側には**メサビ鉄山(鉄鉱石)**と鉱産資源に恵まれている。

19 世紀後半ごろから、**五大湖**を利用してメサビの鉄鉱石を船で運び、アパラチア炭田の石炭を使って、**ピッツバーグ**で鉄鋼の生産が始まった。

さらに、**デトロイト**で、この鉄鋼を材料とする**自動車工業**が発達した。

このほか、**シカゴ**はアメリカ第三の都市で、畜産物の集散地になっており、**農業機械**、**食品工業**(食肉など)がさかんである。

[問題 5]

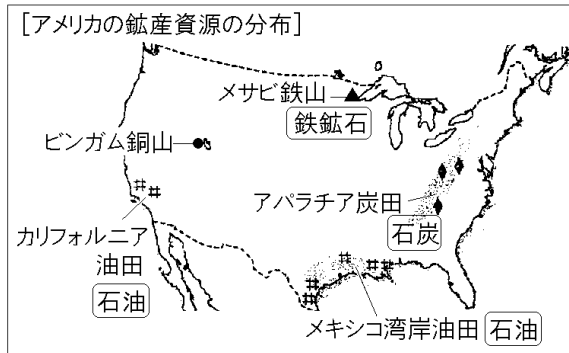
地図中の▲、◆、#にあてはまる地下資源を次の[]からそれぞれ選べ。

[石炭 金 銅 すず 鉄鉱石 石油 銀]

[解答欄]

▲：鉄鉱石	◆：石炭	#：石油
-------	------	------

[解説]

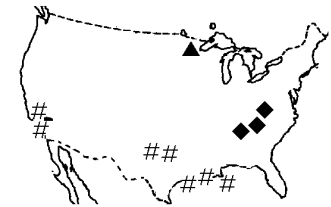


鉄鉱石はメサビ鉄山などで産出される。

石炭はアパラチア炭田などで産出される。

石油はメキシコ湾岸油田、カリフォルニア油田などで産出される。

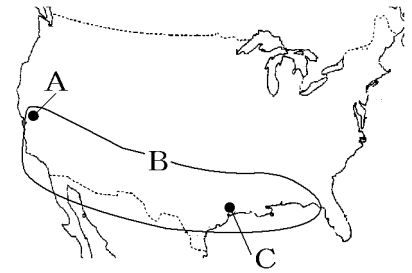
ビンガムでは銅が産出される。



[問題 6]

右の略地図を見て、次の各問いに答えよ。

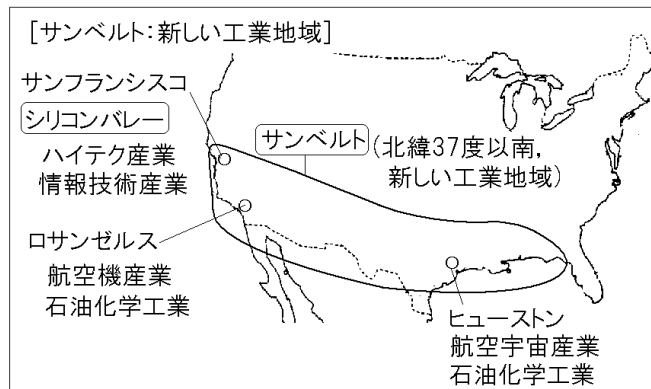
- (1) A 付近(サンフランシスコ郊外)にある情報技術産業の会社が多く集まっている地域を何というか。
- (2) B は北緯 37 度以南にある新しく工業が発達した地域である。何というか。
- (3) C はスペースシャトルに代表される産業をふくめた新しい工業分野がさかんな地域である。この産業を何というか。



[解答欄]

(1) シリコンバレー	(2) サンベルト	(3) 航空宇宙産業
-------------	-----------	------------

[解説]



20 世紀後半、五大湖周辺や大西洋岸の工業は停滞した。

工業の中心は、北緯 37° 以南のサンベルトとよばれる地域に移動した。

気候が温暖で、土地が安く手に入り、労働力が豊富で賃金が安いことがその理由である。

サンフランシスコ近郊のシリコンバレーでは、コンピューターなどのハイテク産業(先端技術産業)、インターネットなどに関連した情報技術産業(IT 産業)がさかんである。

アメリカ第 2 の都市であるロサンゼルスでは石油化学と航空機産業がさかんである。

メキシコ湾岸の油田地帯のあるヒューストンでは石油化学工業と航空宇宙産業がさかんである。

[問題 7]

アメリカには世界に事務所や工場をもつ、さまざまな分野の大企業が集まっている。

このような企業を何というか。

[解答欄]

多国籍企業

[問題 8]

アメリカ、カナダ、メキシコの 3 国で結ばれた自由貿易協定を、アルファベットの略称で答えよ。

[解答欄]

NAFTA

[解説]

NAFTA (北米自由貿易協定)
アメリカ合衆国, カナダ, メキシコ

NAFTA(北米自由貿易協定)(North American Free Trade Agreement)は、**アメリカ合衆国、カナダ、メキシコ**の 3 国で結ばれた自由貿易協定である。

カナダとメキシコの輸出の 7～8 割はアメリカ合衆国向けである。

また、アメリカ合衆国の輸出相手国は、1 位がカナダ(19.4%)、2 位がメキシコ(12.8%)である(2010 年)。

この 3 つの国は貿易に関して関係が深い。

(統計出典)「世界国勢図会 2012/2013」P330